



練馬区立石神井東小学校

平成 30 年度

学校便り

1 月号

校長 赤尾 眞司

新しい年を迎えて

校長 赤尾 眞司

あけましておめでとうございます。

平成 31 年の年頭にあたり、子供たちの健やかな成長と、保護者、地域の皆様のご健康とご多幸を心より祈念申し上げます。今年一年も教職員一同、一丸となって教育に当たって参りたいと思います。皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

「一年の計は元旦にあり」と言います。皆様のご家庭では、どのようなお正月を迎えられたのでしょうか。田舎に帰られた、旅行に出かけた、家族でのんびりと過ごした、大勢のお客様が来た等、様々だったと思います。新しい年を迎えると、人は何らかの期待と夢をもつものです。この一年のスタートとして、子供たちには是非、目標をもって欲しいと願っています。「計算が早くできるようになる」「字を上手に書けるようにする」「たくさんの友達と仲良くする」といった具体的な目標を立てられるとよいですね。一年を振り返ったとき、今年はこの目標が達成できたと思うことができる年にしたいものです。

今日、8日から3学期の授業が始まりました。13日間の冬休み、日数はそれほど長くはありませんでしたが、ご家庭で、ご家族で過ごされる時間が多かったと思います。両手に荷物を抱えて登校してきた子供たちの顔を見ると、いつものように元気いっぱいの子、少し眠そうにしている子、まだ休み中のようにしている子等、様々です。早く普段の生活リズムに戻していきましょう。今年も9日から21日まで生活改善週間を実施します。生活リズムの見直しに活用してください。

何年か前になりますが、正月の新聞を読んでいて心に残る記事がありました。それは、宇宙飛行士の星出彰彦さんの話でした。星出さんはその記事の中で、今学んでいる人たちへのメッセージを次のように話しています。(朝日新聞 H26. 1. 1 版から一部引用)

「世界中から集まった宇宙飛行士たちも、未知の分野に取り組むたびに苦勞しているが、得意分野を土台にしつつ、外へ飛び出すことで乗り越え、成長している。だからみなさんも、苦勞を次のステップにつなげるために、外に出てみてほしい。日本国内で今の環境から出るという『外』もあるし、日本そのものから出る『外』もある。」

学校教育ということで考えてみると、今の環境、つまり今取り組んでいることについて、少し視点を変えてみるのが大切だということになると思います。例えば、漢字の学習を例にとってみますと、漢字を覚えるために何回も書きながら練習をします。しかし、一つの漢字を覚えてだけで満足せず、辞書で他の使い方を調べてみる、文章に使ってみる等、日常生活でも意識することで、いっそう身に付きやすくなります。子供たちにとって学校や家庭で学び身に付けたことが、星出さんの言う「得意分野」です。そして、日常生活や新しい学びに対して、なぜ、どうして、他の方法はないのだろうかと向かって行くことが、「外に出る」ことだと思います。子供たちの学びはややもすると「得意分野」の学習で終わってしまうことがあります。その上で、子供たちの学びにとっての外、つまり積極的に自分以外の者と学ぶ態度が必要になってきます。本校でも、話し合い活動を授業に取り入れ、自分の考えを伝える学び、他者の考えを理解し、自分の考えを広める学びに取り組んでいます。自分の学びに満足せず、自分の考えをもとにして友達や先生と意見を交わすことが、より一層の知識の向上につながります。今年自分だけでなく「自分の外」つまり、友達、先生、ご両親等他者との学びを意識して取り組んで欲しいと願っています。そのことが友達を認め、友達の気持ちに即して考え行動できる、社会の中で生きていく力を身に付ける近道だと思います。

亥年の今年。「亥年」には無病息災の意味もあるそうです。子供たち、保護者や地域の皆様が健康に過ごせる年になってほしいと願っています。